



ID Holdings

株式会社 IDホールディングス
2023年3月期 決算説明資料

代表取締役社長 船越 真樹

東証プライム市場
証券コード

4709



当社ウェブサイトへの
アクセスができます。



1**2023年3月期決算説明****2****中期経営計画
Next 50 Episode II
「Ride on Time」**

■ 過去最高の売上高・営業利益を達成

売上高：311億1百万円（前期比 +11.9%）



- ⊕ 大手ITベンダーへの営業強化による取引拡大
- ⊕ コア事業（システム運営管理、ソフトウェア開発）の拡大

営業利益：24億24百万円（前期比 +29.7%）



- ⊕ 利益率の高いDX関連ビジネスの拡大
- ⊕ 管理部門における業務効率化
- ⊖ 従業員への還元による費用の増加

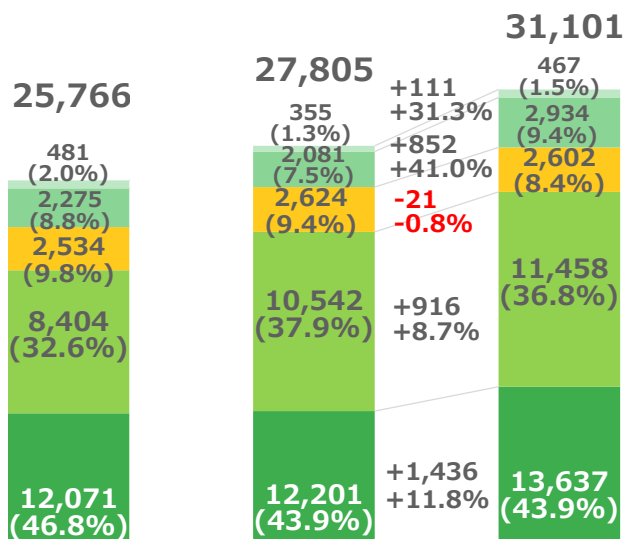
連結損益状況(前年同期比)

(単位：百万円)	2022.3		2023.3		増減比	
	実績	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
売上高	27,805	-	31,101	-	3,295	+11.9%
売上原価	21,137	76.0%	24,298	78.1%	3,161	+15.0%
売上総利益	6,668	24.0%	6,802	21.9%	134	+2.0%
販管費	4,799	17.3%	4,377	14.1%	-421	-8.8%
EBITDA ^{※1}	2,491	9.0%	3,033	9.8%	542	+21.8%
営業利益	1,869	6.7%	2,424	7.8%	555	+29.7%
経常利益	1,922	6.9%	2,504	8.1%	581	+30.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,046	3.8%	1,402	4.5%	356	+34.1%
1株当たり当期純利益(EPS)(円)	61.61	-	84.54	-	22.93	-
のれん償却前EPS(円) ^{※2}	87.78	-	111.33	-	23.55	-

※1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額

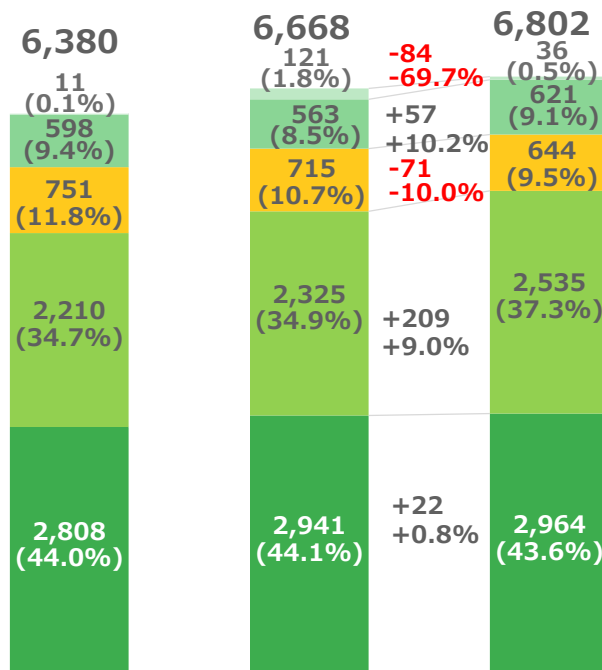
※2 のれん償却前EPS = (親会社株主に帰属する当期 (または四半期) 純利益 + のれん償却額) / 期中平均株式数

売上高



売上総利益

単位：百万円



■ システム運営管理 ■ ソフトウェア開発 ■ ITインフラ ■ サイバーセキュリティ・コンサルティング・教育 ■ その他

サービス別売上高のポイント

- システム運営管理
 - ⊕ 大手ITベンダーへの営業強化による取引拡大や、金融関連顧客における受注拡大
- ソフトウェア開発
 - ⊕ 大手ITベンダー、金融、公共関連顧客における受注拡大
 - ⊕ 運輸関連顧客における大型案件の再開
- ITインフラ
 - ⊖ 公共、情報通信関連顧客における案件の収束
 - ⊕ 金融関連顧客における取引拡大
- サイバーセキュリティ・コンサルティング・教育
 - ⊕ サイバーセキュリティにおける受注拡大や製品販売の増加
 - ⊕ コンサルティングにおける売上の増加

※ 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用しています。

DX関連ビジネスとは

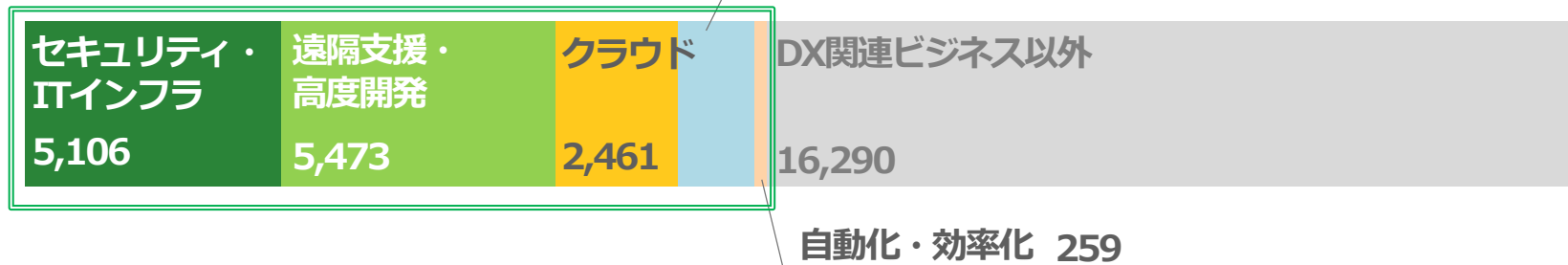
既存のITサービスに、クラウドやAI、IoTなどの先端技術を組み合わせ、お客さまのDXを推進するビジネス

DX関連売上高： **14,810** 百万円 連結売上高比：約 **47.6** %

DX関連売上総利益： **3,472**百万円（同率： **23.4**%）

（参考）2022年3月期DX関連売上高：12,671百万円 連結売上高比：約45.6%

DX関連ビジネス (百万円)



セキュリティ・ITインフラ

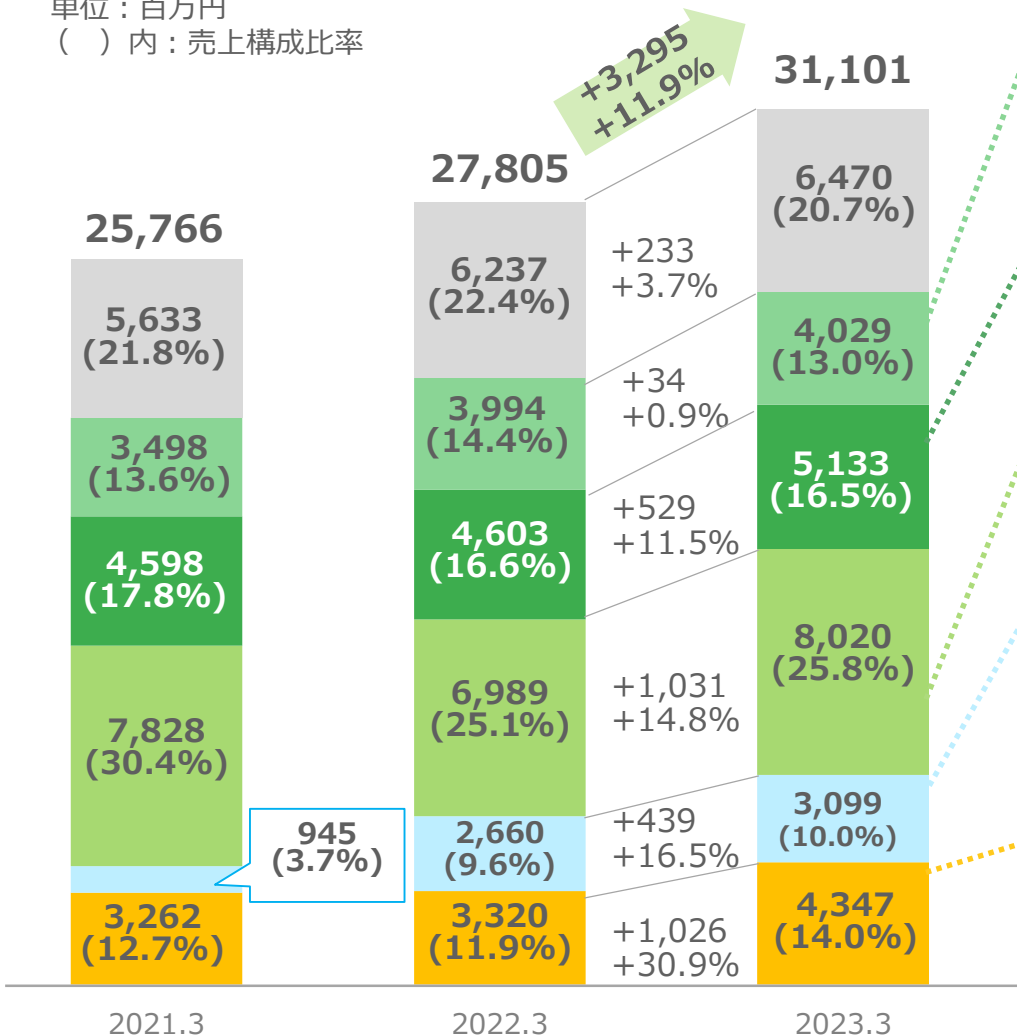
遠隔支援・高度開発

クラウド

コンサル・研修

自動化・効率化

単位：百万円
（ ）内：売上構成比率



戦略パートナー
⊕ 営業強化による取引の拡大

主要顧客（金融以外）
⊕ 公共関連顧客における受注の拡大
⊕ 運輸関連顧客における案件の再開

主要顧客（金融）
⊕ 既存顧客における受注の拡大

日立グループ
⊕ 営業強化による取引の拡大

IBMグループ
⊕ 営業強化による取引の拡大

【参考】

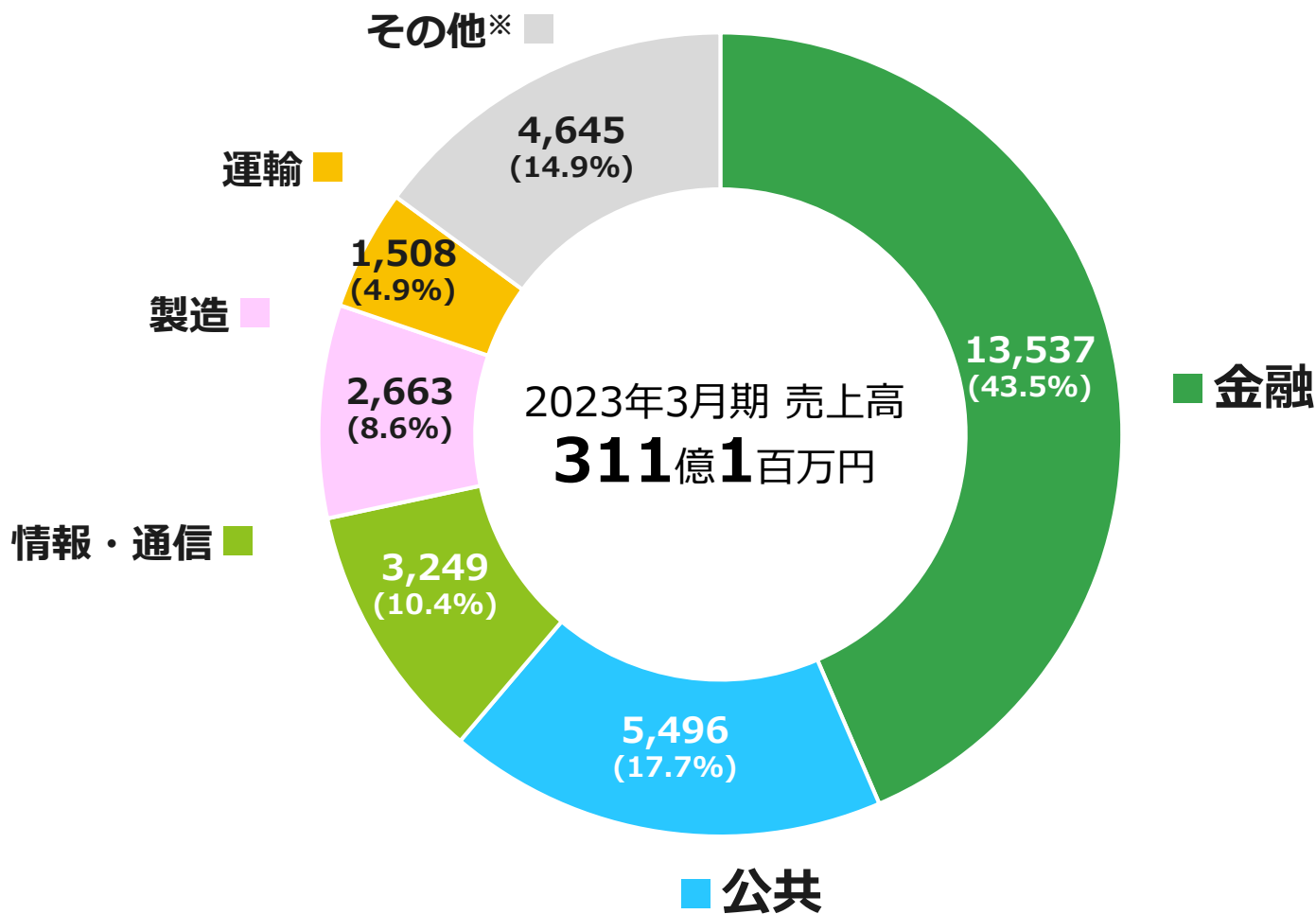
	キンドリル ジャパン	MIデジタル サービス	日本IBM
2023.3	2,390 (7.7%)	1,447 (4.7%)	509 (1.6%)

■ IBMグループ ■ 日立グループ ■ 主要顧客（金融）
■ 主要顧客（金融以外） ■ 戦略パートナー ■ その他

※1 今期より「主要顧客」の内訳を一部変更しています。また2021.3、ならびに2022.3の売上高につきましても、変更後の区分に基づき算出しています。
※2 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用しています。

Change or Die!

単位：百万円
 () 内：売上構成比率



Change or Die!

*「メディア」、「ヘルスケア」、「建設・不動産」、「卸売・小売業・飲食店」等

(単位：百万円)	2022.3	2023.3		主な増減要因
	実績	実績	増減額	
経常利益	1,922	2,504	+581	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経常利益の増加要因 <ul style="list-style-type: none"> - 営業利益の増加 +555 - 営業外費用の減少 -25
特別利益	32	0	-32	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別利益の減少要因 <ul style="list-style-type: none"> - 前期に計上した投資有価証券売却益の反動減 -27
特別損失	18	172	+154	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別損失の増加要因 <ul style="list-style-type: none"> - 退職給付制度終了損の計上 +112 - 事業所閉鎖損失の計上 +37
法人税など合計	890	929	+38	
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,046	1,402	+356	

(百万円)

2022.3

資産 16,238	負債 6,792
	純資産 9,446

2023.3

資産 17,519	負債 7,087
	純資産 10,432

主な要因

- ・ 売掛金の増加 +1,399
- ・ 現金及び預金の増加 +161
- ・ のれんの償却による減少 -444

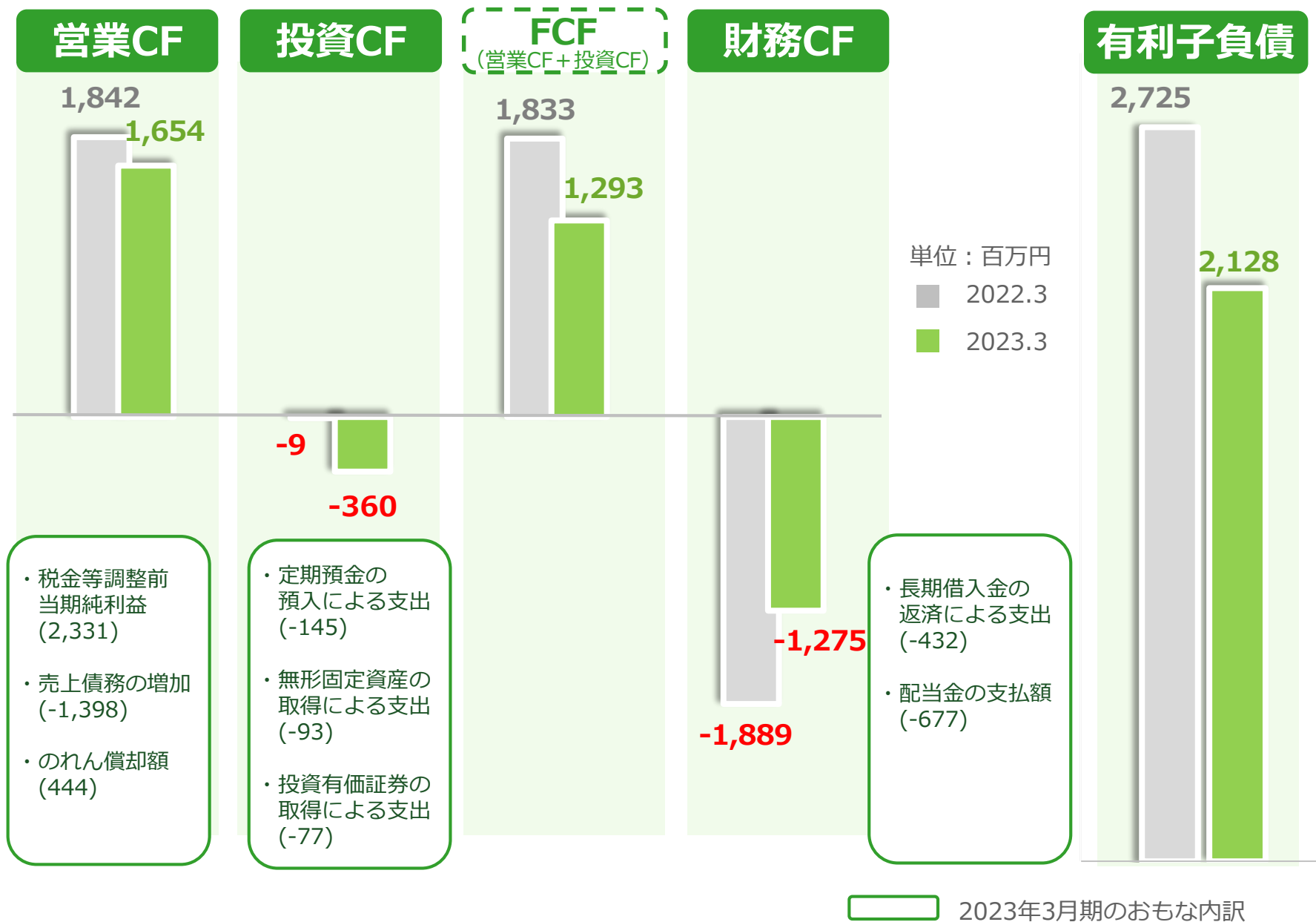
主な要因

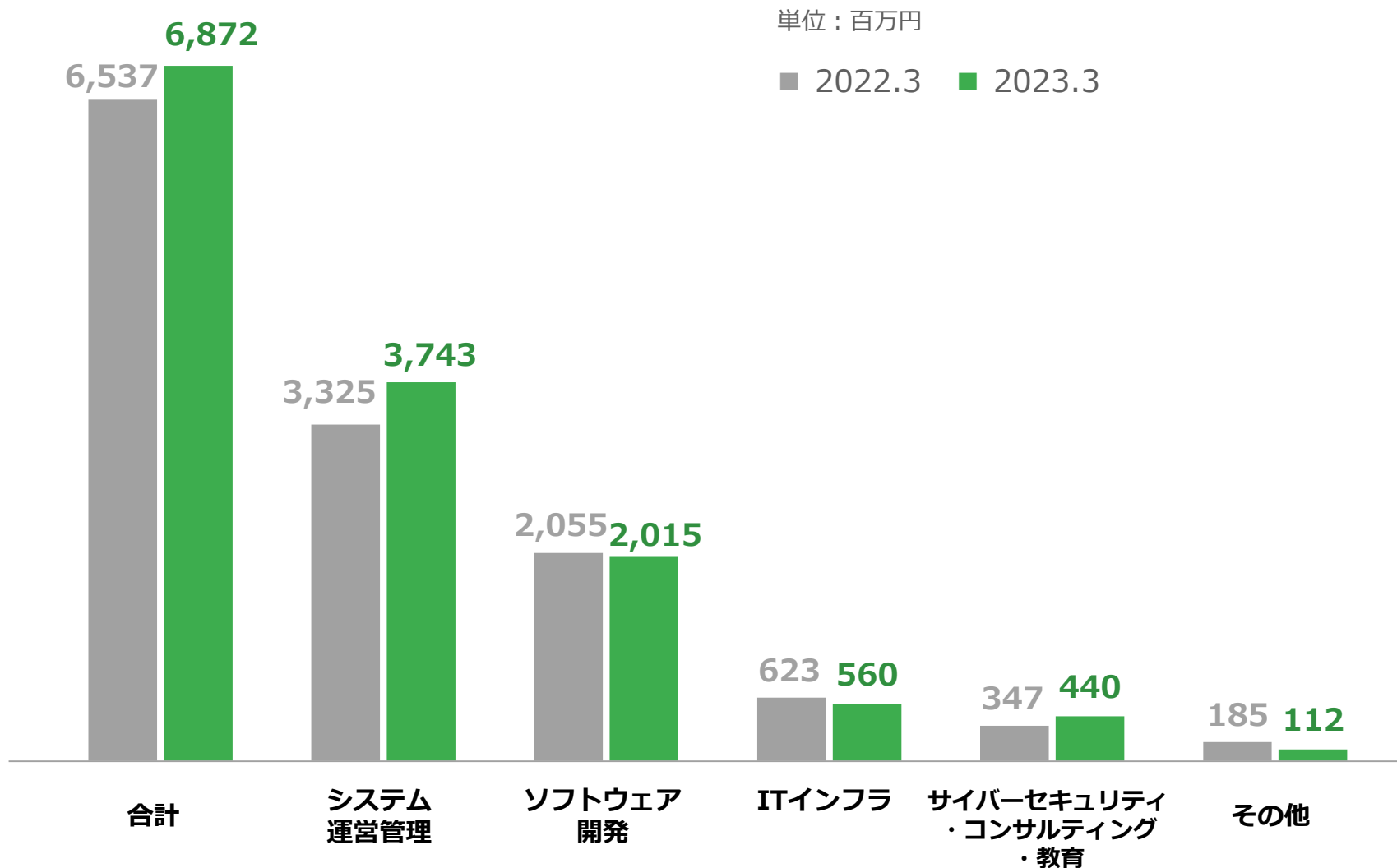
- ・ 賞与引当金の増加 +306
- ・ 買掛金の増加 +202
- ・ 短期借入金の減少 -160

自己資本比率 : **59.3%**

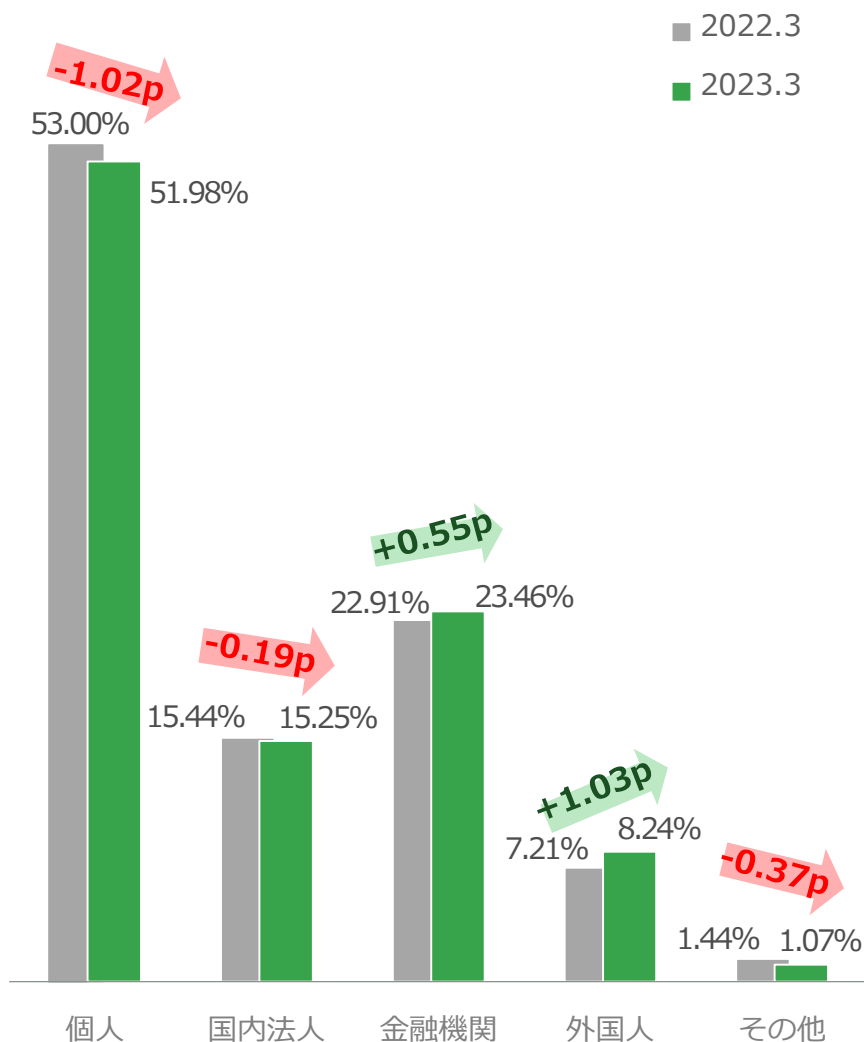
流動比率 : **195.5%**

のれん : **1,304**百万円





株主構成の推移



主要株主

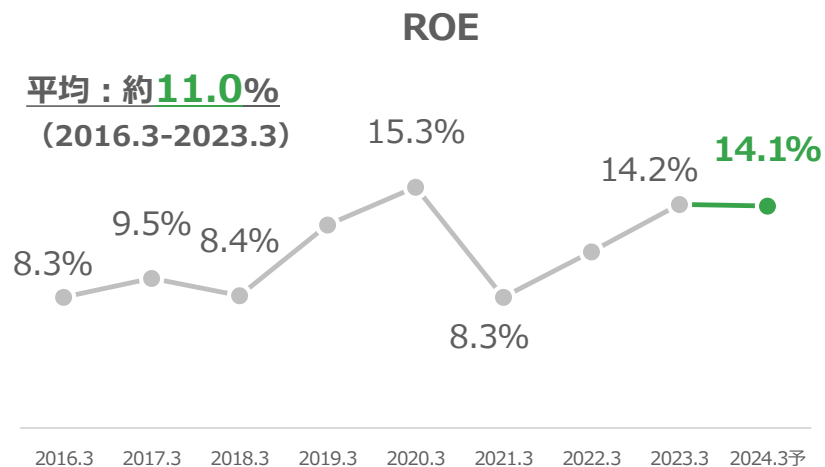
- ✓ 株主総数6,121名 (2022年3月末比138名増)
- ✓ 議決権を有する株主総数5,063名 (2022年3月末比4名減)
- ✓ 持株比率は、自己株式 (1,018千株) を発行済株式総数から控除して算出しています。

	主要株主	持株比率
1	日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	10.41%
2	株式会社エイ・ケイ	9.18%
3	ID従業員持株会	6.93%
4	株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	4.50%
5	PERSHING-DIV. OF DLJ SECS. CORP.	4.45%
6	みずほ信託銀行株式会社	3.72%
7	株式会社日本カストディ銀行 (信託E口)	2.65%
8	TDCソフト株式会社	2.49%
9	船越 朱美	1.74%
10	丸林 香織	1.58%

資本効率向上の施策

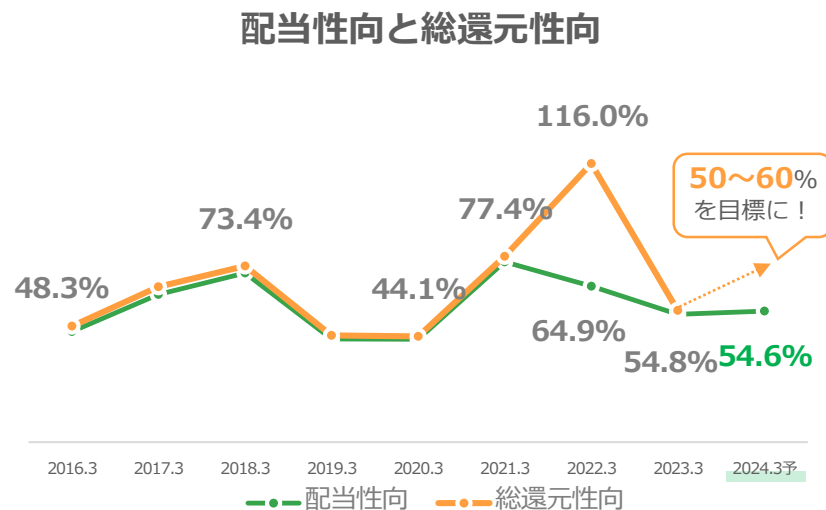
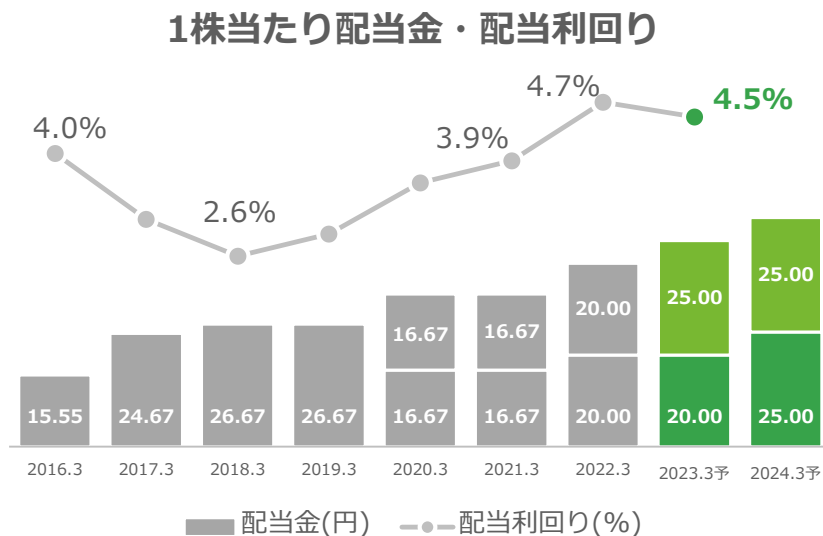
ROE = $\frac{\text{当期純利益}}{\text{自己資本}}$

- M&A戦略やDXビジネスの推進による売上高拡大
- サービス型ビジネスへのシフトによる利益率の向上
- さらなる成長に向けた人材投資
- 配当による株主還元の実施



株主還元の実施

2016.3 - 2023.3 増配 5回、分割 2回 を実施



※総還元性向 = (配当総額 + 自己株式取得額) ÷ 親会社株主に帰属する当期純利益

1

2023年3月期決算説明

2

中期経営計画
Next 50 Episode II
「Ride on Time」

目標数字を前倒し達成。最終年度の売上高目標を**350**億円に上方修正。

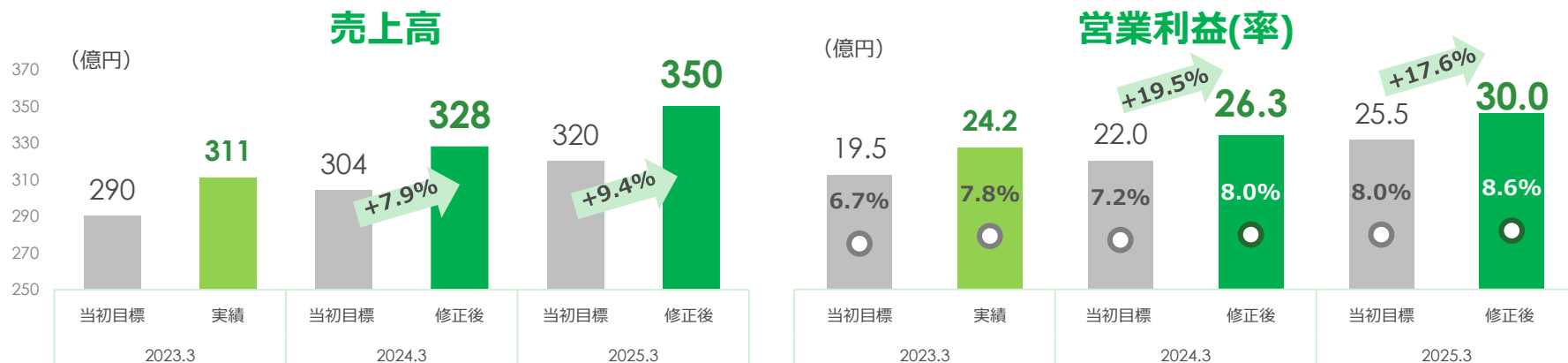
	2023年3月期		2024年3月期		2025年3月期		2027年3月期
	当初目標	実績	当初目標	修正後	当初目標	修正後	
売上高	290億円	311億円	304億円	328億円	320億円	350億円	400億円
営業利益 (同率)	19.5億円 (6.7%)	24.2億円 (7.8%)	22.0億円 (7.2%)	26.3億円 (8.0%)	25.5億円 (8.0%)	30.0億円 (8.6%)	32.0億円 (8.0%)
DX売上高 (同率)	139億円 (48.0%)	148億円 (47.6%)	161億円 (53.0%)	173億円 (53.0%)	192億円 (60.0%)	210億円 (60.0%)	280億円 (70.0%)
EBITDA (同率)	25.8億円 (8.9%)	30.3億円 (9.8%)	28.0億円 (9.2%)	32.6億円 (10.0%)	31.0億円 (9.7%)	35.5億円 (10.1%)	40.0億円 (10.0%)

NEW

株主還元

総還元性向50~60%を目標

※総還元性向 = (配当総額 + 自己株式取得額) ÷ 親会社株主に帰属する当期純利益



5つのステークホルダーへ **Waku-Waku** する未来をお届けする
ITエンジニアリングパートナーを目指して。ともに **Ride on Time!**



Next 50 Episode II 「Ride on Time」

企業価値の向上と、**従業員やBP**への還元で、さらなる成長サイクルの実現へ！

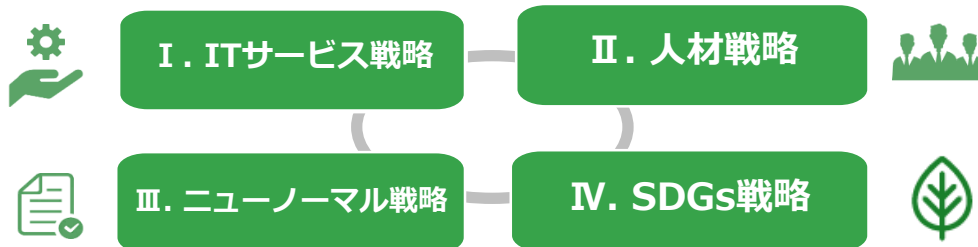
	2022.3	2025.3	2027.3
売上高	278億円	350億円	400億円
営業利益	18.6億円 (6.7%)	30.0億円 (8.6%)	32.0億円 (8.0%)
EBITDA	24.9億円 (9.0%)	35.5億円 (10.1%)	40.0億円 (10.0%)

数値目標

3つの
基本テーマ

- 1 当社DXポートフォリオに沿ったビジネスモデルの展開
- 2 高付加価値創出に向けたパートナーシップの強化
- 3 管理部門の高度化と事業部門への人材シフト

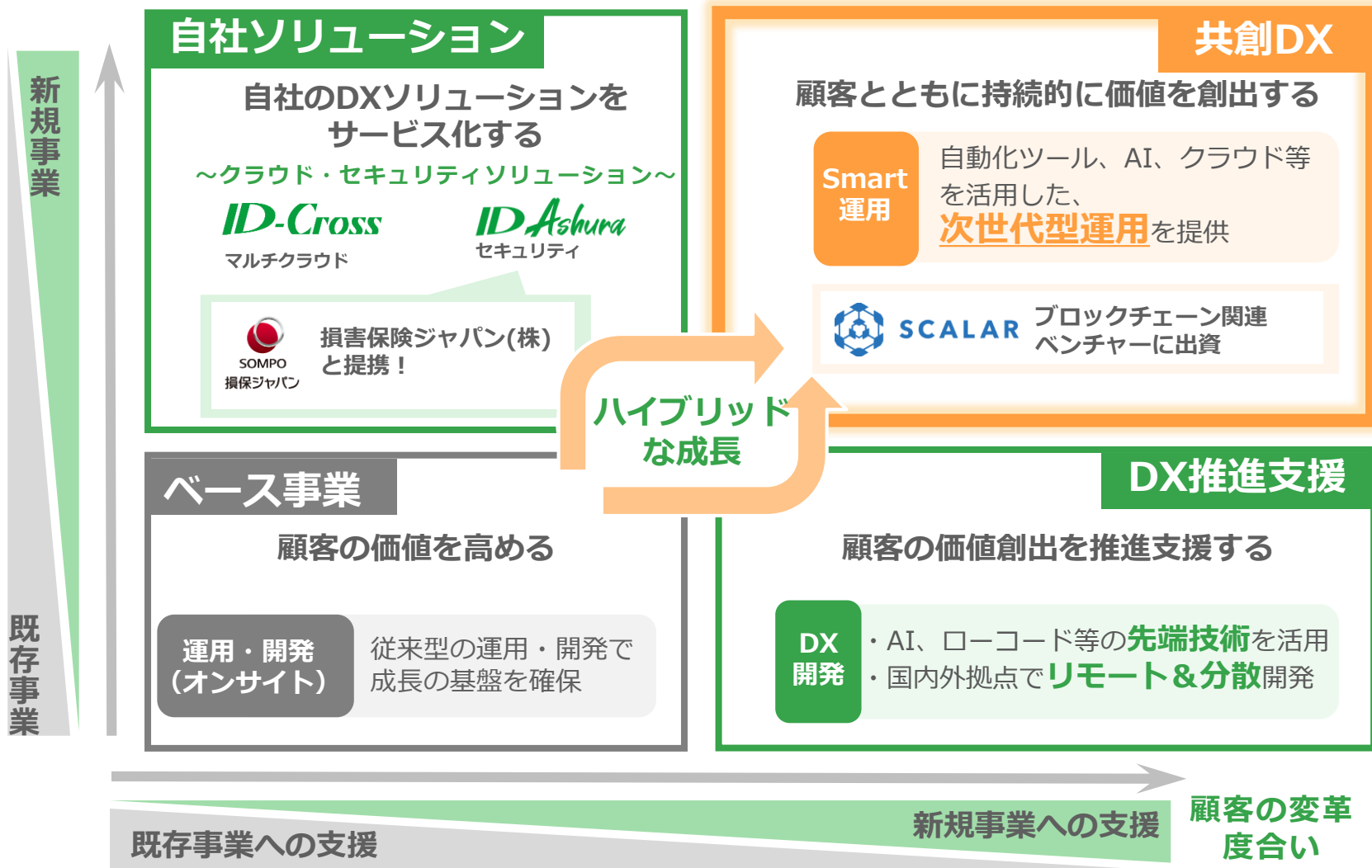
4つの基本戦略



■ ベース事業で収益を確保し、顧客のDX推進支援&自社ソリューションを拡大

Change or Die!

当社のイノベーション度合い



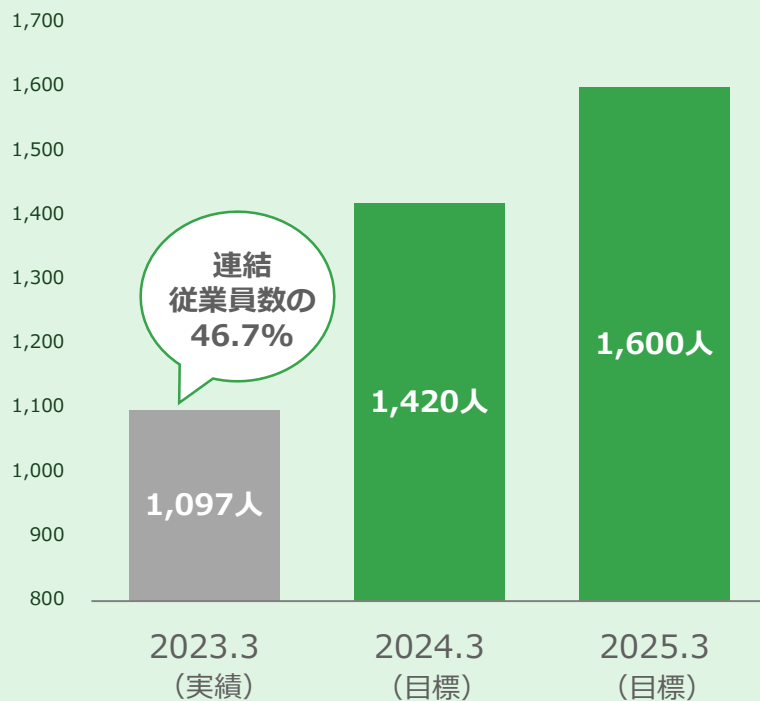
共通タスク ◆重点顧客タスク ◆戦略パートナータスク ◆BP価値向上 ◆品質管理 ◆グローバルタスク

※出典『情報サービス産業白書2021』p6, 「DXビジネスポートフォリオ」を一部修正

DX関連ビジネスの技術者を育成し、収益性の向上へ

DX関連 技術者数の推移

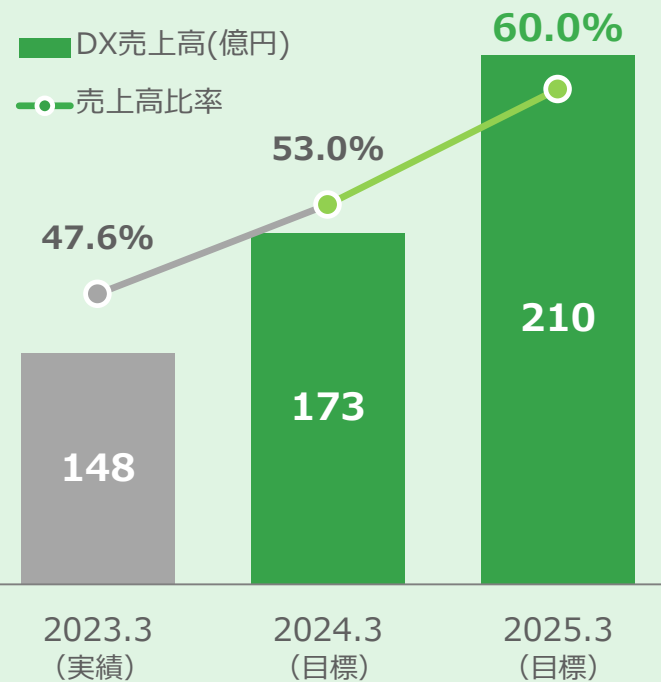
クラウド、AI、セキュリティ
を中心に人材育成



DX関連 売上高の推移

DX関連売上高比率60%を目指す

DX関連利益率は通常より約3P高い。



「システム運営管理」とは

お客様のシステムを24時間365日運用・監視し、社会の重要インフラを支える業務。
他社にとって参入障壁が高く、ストックビジネスとして確実に収益を確保。

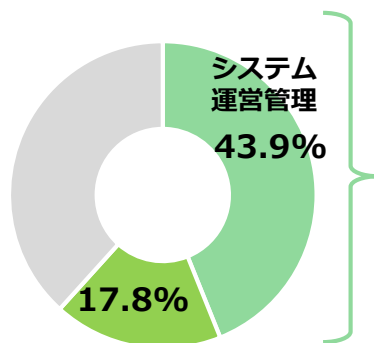


データセンター市場の規模拡大により
システム運営管理事業の需要が**増加**見込み

従来型運用からSmart運用への移行を進め、**新たなシステム運用**を創出する。

高付加価値化を進め、売上高の**75%**を目指す

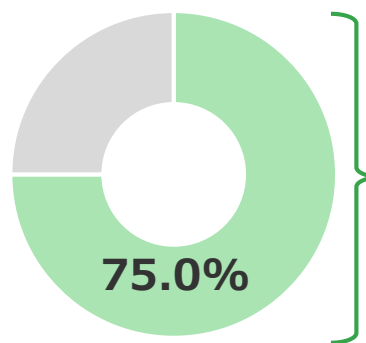
【2023年3月期 連結売上高】



セキュリティ、
プラットフォームなど

61.7%

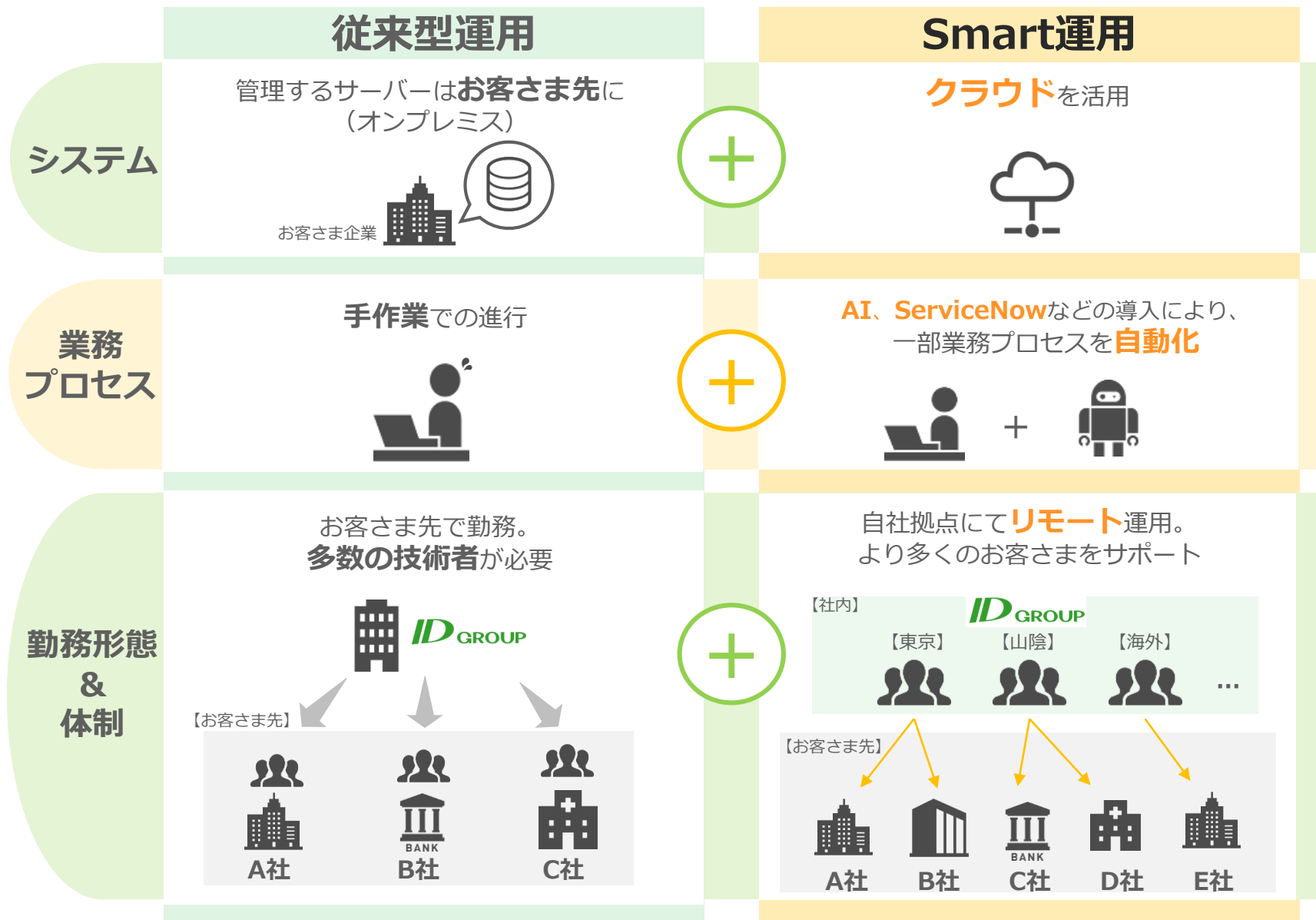
今後の
方向性



- × セキュリティ
- × プラットフォーム

Change or Die!

従来型運用に加え、先端技術を活用したSaaS型サービス「Smart運用」に注力



■ 時間と場所にとらわれない運用サービスの実現を目指し、
バーチャル空間を活用したオペレーションセンターの開発を進行中

ID-VR^{OP}

ID Virtual Reality OPeration center



物理的に離れた拠点からアクセス可能！
災害時も継続的に稼働できます。



人月型ビジネスからサービス型ビジネスへ

年間サブスクリプション契約のSaaS型サービスとして、2024年1月にサービス開始予定！

仮想空間でサイバー対策のレッスン！

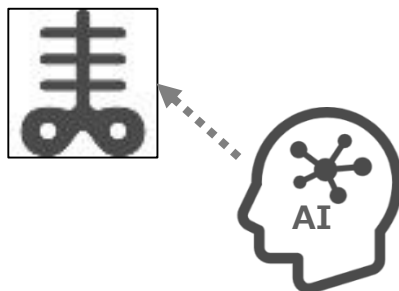
Cyber Range



サイバーレンジは、日々高度化するサイバー攻撃を再現し、訓練することができる仮想の演習環境です。米国のサイバーレンジNo.1企業であるSimSpace社と協業し、お客さまのセキュリティ人材の育成を支援します。



AIがレントゲン画像を読み取り、診断！



鳥取大学医学部附属病院の知見と当社の最先端技術を組み合わせ、X線画像診断を行うAIシステムの共同研究を進めています。AIの活用により、医師の業務支援や地域医療における課題解決を目指します。

世界各国の地域に根差したセールス・生産ネットワークを強化し、
グローバルなITサービスモデルの確立を目指します。

セールスネットワーク



Japan



China



Singapore



America



Amsterdam



London



生産ネットワーク



事業活動を通じて、さまざまな社会課題の解決に向けた取り組みを行っています。

IDグループの活動

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



障がい者雇用
による植物栽培



子供食堂
の支援



DXソリューション
サービスの提供



ジェンダーフリーの実現
グローバル人材の採用・活用



文化芸術活動支援



メセナ活動を通じ、
多くの芸術家を支援しています。

外部からの評価



4年連続で認定



「人材活用力」がA++



「社会価値」がS

	主要KPI	2023.3 実績	2024.3 目標	2025.3 目標
ITサービス戦略	DX売上高	148億円	173億円※	210億円※
	DX売上高比率	47.6%	53%	60%
人財戦略	DX技術者数	1,097人	1,420人	1,600人
	女性従業員比率	24.3%	28%	30%
	女性管理職比率	15.9%	25%	30%
	外国籍社員比率	7.9%	13%	15%
ニューノーマル戦略	販管費率の改善	14.1%	14.6%	13.9%
SDGs戦略	CO2の削減（電力使用由来による） * 2021年3月期比 電力使用量	100%減	18%減	20%減
	紙の使用量の削減 * 2021年3月期比	30.9%減	20%減	23%減
	環境ボランティア活動の参加 （年間延べ人数）	228人	200人	200人

※ 中期経営計画の数値目標の修正にともない、目標の修正を実施。

2024年3月期通期 連結業績予想 (前期比)

(単位：百万円)	2023.3		2024.3		増減比	
	実績	構成比	計画	構成比	増減額	増減率
売上高	31,101	-	32,800	-	+1,698	+5.5%
EBITDA	3,033	9.8%	3,269	10.0%	+235	+7.8%
営業利益	2,424	7.8%	2,630	8.0%	+205	+8.5%
経常利益	2,504	8.1%	2,650	8.1%	+145	+5.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,402	4.5%	1,520	4.6%	+117	+8.4%
1株当たり当期純利益 (EPS)(円)	84.54	-	91.59	-	+7.05	-
のれん償却前EPS(円)	111.33	-	118.38	-	+7.05	-
営業CF	1,654	-	1,880	-	+226	-

Change or Die!

免責事項

本プレゼンテーション資料には、株式会社 IDホールディングスの業績予想、将来戦略、事業計画などの将来情報や経済動向、他社との競争状況などの潜在的リスクや不確実な要素が含まれています。

これらの歴史的事実以外の情報に含まれる予測及び計画は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断しています。

その為、実際の業績、事業展開または財務状況は、今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な原因により、記述されている将来予測及び計画とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。